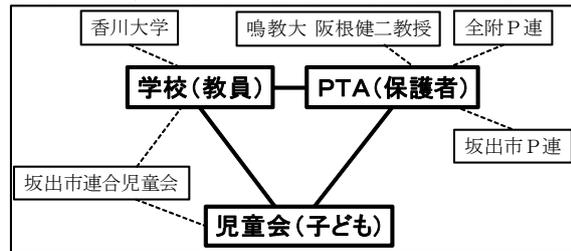


(V-④) 教員・保護者・児童によるいじめ予防プログラムの取組

1 概要

昨今、学校におけるいじめの問題は、大きな社会問題になっており、いじめの予防は、学校側だけではなく、保護者や地域も含めて取り組んでいかなければならない喫緊の課題である。国立大学附属学校園でも、平成 29 年 12 月 24 日に東京に集まり研修したことを生かし、いじめを正しく捉え、効果的な取組を実施する必要がある。その事例を発信していくことで、全国のいじめに苦しむ子どもたちを少しでも減らしていけるのではないかと考えた。

本稿で報告する事例は、人権、同和の授業参観日に PTA 主催の「いじめ予防プログラム」を挿入し、教員・保護者・児童が一体となって取り組んだ例である。右図に示すように他団体の協力を求め、会の充実を図るとともに、他団体への広がりを目指した。



<他団体とのつながり>

2 取組の実際

(1) プログラムの流れ (平成 29 年 6 月 12 日)

< 13 時より全学級で人権、同和の授業参観（道徳、学活等）を行った後、全学級の保護者が体育館へ集合 >

1. 開 会 (14:00 ~)
2. P T A 会長挨拶
3. 校長挨拶
4. 来賓紹介

(鳴教大 阪根教授, 香川大副学部長, 全附 P 連会長・役員, 坂出市 P 連会長)

5. いじめの基本情報、本校の現状、取組みについて (14:05 ~)

副校長, 児童会役員

6. いじめ問題への対応について (14:20 ~)

鳴門教育大学大学院 阪根健二教授

(本校卒業生, 元 P T A 役員, 元坂出市中学校教員)

< 講演終了後、下学年保護者は退席。上学年保護者のみ残る。代わって児童研究員 (上学年の児童) が交代で保護者の活動を参観 >

7. グループ討議 保護者や子どもにできること (15:05)

8. グループワーク いじめ予防ポスター作製 (15:20)

9. グループ発表 (15:45)

10. アドバイザー講評

香川大学教育学部 野崎武司副学部長

11. 閉 会 (16:00)

12. プログラムのふりかえり

参加者、ご来賓からのご意見

(16:15 終了)

(2) 当日の様子



- ①副校長と児童会役員による取組の紹介
教員の取組と本校のいじめの現状
児童の取組を紹介



- ②阪根先生の講話
いじめの考え方及び保護者が取り組むこと
の価値を（保護者の立場、教員の経験
から）



- ③グループ討議及びポスター作成
児童研究員も自然と保護者グループに
とけ込んで



- ④グループ発表
みんなでシェアリング
できたポスターは家庭の冷蔵庫に



- ⑤児童研究員代表の感想発表



- ⑥香川大学副学部長より講評

- ⑦プログラムの振り返り

参加した保護者数名、坂出市P連会長、全附P連会長より感想をいただいた。

<完成した冷蔵庫用のポスター（例）>



<保護者の感想より>

- ・いじめの定義が変わったこと、自分の認識とは違って考えてさせられました。
- ・普段話せない高学年の子どもと話すことができ、考えていることが聞けてよかった。
- ・阪根先生の「いじめられる子に非なし」に衝撃を受けた。中立はだめと聞きはっとした。
- ・子どもの話にしっかり耳を傾けようと思った。
- ・「いじめ」重たいテーマだったが、絶対に目をそらしてはいけないテーマを子どもと一緒に考えることができてよかった。
- ・附属小にもいじめがあり、きちんと把握していることがわかり、少し安心した。
- ・子どもは親に心配をかけたくないと思っていることがわかった。何でも話してねと答えた。

<児童の感想より>

- ・道徳の授業参観の後、いじめ予防プログラムで大人と一緒にいじめのことについて考えポスターを作った。私もいじめのことについて考えるよい機会になり、クラスでいじめがおきていないか考えた。
- ・保護者はいじめにあったら、いつでも相談してほしいと思っていることがわかった。
- ・お父さんやお母さんたちが、自分たちのためにいろいろ考えていてくれてうれしかった。
- ・僕たちのいじめのことについて、あんなに真剣に考えたり発表したりしてくれてうれしかった。
- ・家に帰って、道徳の授業やいじめのこと、一緒に作ったポスターのことを話ができよかった。

<教員の感想より>

- ・いじめの定義を保護者と一緒に確認できてよかった。これから気軽に保護者が気になることを伝えられるような呼びかけをしていきたい。
- ・児童研究員が保護者の活動を見る設定だったが、自然と子どもと保護者の対話が生まれ一緒にポスターづくりに取り組む様子が見られ微笑ましかった。
- ・繰り返し繰り返し教員が意識付けていないといけないと思う。学級開きや4月の学級懇談会の折には、全家庭にいじめ防止基本方針を知らせ共有していく必要がある。

3 いじめ事案記録シート（エクセル）とその運用

全学級で毎月実施している「先生聞いてカード」の記述のうち、いじめの定義に該当する事案を右上のシートに記録している。多い月では20件程ある。

生徒指導対策委員会（毎月実施）で担任より相談があった事案と「先生聞いてカード」の事案とを合わせて、対策委員会の終了直後に、副校長、教頭、生徒指導主任の3者で協議し、①ありがちな事案（担任の指導と観察のみ）、②要注意事案（全教員共通理解して観察指導、ケース会の開催）、③重大事案（大学報告、大学を交えての対策委員会）の3つに分類している。

②③の事案については右下のいじめ事案記録シートに記録するようにしている。

平成28年度は②③の事案を国からの調査の際、報告した。22件であった。

月日	件数	被害者			加害者			内容
		学年	性別	名前	学年	性別	名前	
1	3	男			3	男		暴力・悪口
2	3	男			3	男		暴力・悪口
3	3	女			3	男		悪口
4	3	男			3	男		悪口
5	4	女			3	女		暴力
6	4	男			4	女		やはり取られた
7	4	女			4	女		手紙ぐちゃぐちゃにして配る
8	4	女			4	男		嫌がらせ
9	4	女						悪口
10	4	女			4	女		こそこそ
11	4	男			4	女		嫌がらせ
12	4	女						嫌がらせ
13	5	男						悪口
14	5	男						無視
15	5	女						嫌がらせ
16	5	男						悪口
17	5	男						嫌がらせ
18	5	女						嘲された
19	5	女						嫌がらせ
20	6	女			6	女		悪口
21	6	男			6	男女		嫌がらせ
22	6	女			6	男		悪口

<先生聞いてよカード、いじめ該当事案記録シート>

いじめの定義「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」							
日付	該当者	相手	内容	措置	行為の種類	場所 時間帯	ヶ月後の様子
1	4/24		○が△の洗面器をとり、口に流してみてと言い、口がトイレに流す。	子どもたちに指導後、○の保護者にも連絡	嫌がらせ	4/24 15時ごろ	○の嫌がらせは無いが継続観察
2	5月始め		給食マゴロシの帽子、下駄箱が無くなる。なかなか解決せず。5月末に学校に行きたくないと保護者から連絡。無くなった物は発見されず。	学級全体に指導 保護者にも連絡して不登校は回避	物隠し		元気に登校、活躍している。
3	5/11		理科や家庭科の時間に暴言、仲間はずれ、周囲の女児が担任に報告して発覚。	当事者を指導、報告者を称賛。当事者が謝罪	仲間はずれ 暴言	授業中	元気に登校している。継続観察
4	6/1		掃除の時間に暴言。担任ではない教師に本人が前日に訴える。当日は○の担任へ訴える。	○の担任が両者や周囲へ事実確認を行い、謝罪。	暴言	掃除中	元気に登校。○は継続観察
5							
6							

<いじめ事案記録シート>

4 坂出市小学校連合児童会とのつながり

坂出市では、平成26年度に坂出市内のすべての小学校の児童会役員により構成される坂出市小学校連合児童会を発足させ、「さかいでっ子いじめゼロ宣言」を策定した。それ以後も、年に1回（7月下旬頃）集まり、いじめ防止に向けての各校の取組を発表し合ったり、啓発用の日めくりカレンダーをつくらしたり、いじめ防止の劇を撮影しDVD化したりしている。



<市長を招いての会の司会をする本校教員>

附属坂出小学校も初年度から、同じ坂出の一員として参加し、運営スタッフとして教員も派遣している。

みんな輝き、笑顔はじける楽しい学校をつくろう！

香川大学教育学部附属坂出小学校児童会



【ロング昼休みに全校生でけいどろ】



【1年生を迎える会、プレゼント渡し】

<ロング昼休み>

今年から月に1度、掃除の時間を使って、昼休みを15分長くしたロング昼休みをつくり、児童会や他の委員会の企画、自由に遊ぶ時間として活用しています。ロング昼休みをつくらうと考えたきっかけは、これまでの児童会役員が色々な企画をする時に、昼休みの時間では十分な活動ができずに困っていたこと、クラスや縦割り班でもっとたくさん遊びたいという思いがあったことです。

5月にはロング昼休みの時間に、児童会が企画したけいどろを、全校生と先生方で行いました。学年をこえて助け合うことで異学年の中が深まり大好評でした。6月のロング昼休みは自由に遊ぶ時間としました。みんな自分たちの好きな遊びができて、とても楽しそうでした。これからもロング昼休みを使って色々な企画を行い、全校生が、学校が楽しいと思えるようにしていきたいです。

<縦割り班での活動>

○一年生を迎える会、6年生を送る会

4月には、1年生を迎える会、2月には6年生を送る会を行いました。1～6年生までで、縦割り班をつかって、色々なゲームをします。今年の1年生を迎える会では「これは何でしょう？」などの企画をしました。話し合う中で、自然と会話が生まれ、たくさん話すことができました。

○毎日の清掃活動

1～6年生が協力して掃除をすることで、高学年が低学年に教えたり、低学年が高学年の姿を見て学んだりして、どちらの学年もより成長することができています。掃除後には班で反省会を行いよくできたことや改善点を話し合い、よりよい掃除になるように話し合っています。他の学年と一緒に活動することがお互いに、よい効果があると思います。

5 成果と今後の展望

本取組の後6月下旬に、香川県教育委員会からいじめ防止基本方針の改定が出され、各校で検討するよう指示があった。本校では本プログラムを実施しているので教員の意識が高く、ただちに改訂の作業に取りかかり、7月には危機管理マニュアルを改正した。また、全附連から出された保護者用のいじめ防止マニュアル、坂出市連合児童会が出している「さかいでっ子いじめゼロ宣言」もHPに掲載し、教員、子ども、保護者の3者でいじめ予防に取り組む意識を高めることができた。発信については、HPのみならず、全附連新聞「附属だより」、ムック本「国立大学附属学校のすべて」に掲載したり、副校長会で報告したりしている。更に本取組を広げるとともに、一層、いじめ予防に関する活動を工夫し、教員も子どもも保護者も「よいところ探し文化」が醸成できるよう努めたい。

また、昨年度の本校のいじめ認知事案をみると、いじめる側、いじめられる側とも、状況や相手の気持ちを認知することが苦手、多動衝動的な行動をとってしまう、コミュニケーションが苦手等、発達障害の性質や保護者の不安感や過度の期待感が関連しているケースが少なくない。SCとつなぐ教育相談担当の養護教諭と特別支援コーディネーター、生徒指導主任の3者が連携を密にし、SCや特別支援の専門家の見立てや助言を参考にしながら、皆でアイデアを出し合い取り組めるようにしたい。

PTA

のためあるのか、強制的に加入させられた、

何ができるか 保護者側も工夫を

(鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二さん)

PTAは、保護者と教職員によって構成された組織です。任意加入の社会教育関連団体ですが、ほとんどの学校に設置されており、

役員になりたくない等様々な声があるようです。みなさんはどう思われますか。

実は、PTA組織のあり方には多くの課題があることは事実です。しかし、教師だけでは子どもの教育はできません。保護者も共に教育を考えていく必要があるので、今学校現場では、学力問題やいじめ、不登校など多くの課題を抱えてい

る団体だと いえるでしょう。近年この組織への疑問が寄せられるようになりま

した。何のためにあるのか、強制的に加入させられた、

まず、香川大学教育学部附属坂出小学校の授業参観の行事に参加しました。従来、授業参観後には、講演等を聞くというのが通例ですが、今回は、保護者

子どものもたたちの伝言

学校現場をみつめて ⑫



高松市の美術教室D.O.O. 小6 道正心花さん

自身がいじめ問題を考えるという行事を取り入れたのです。ここでは、保護者として、いじめ問題にどう取り組めばよいか、保護者がグループを作り、話し合いながら、対策を考えるという企画です。これだけでも素晴らしい取り組みですが、なんとそれを児童が見学するという新たな企画だったのです。授業参観は児童の様子を保護者が見るとい形ですが、これは全く逆の形であり、児童が保護者の話し合いを見学するというものでした。

果たしてうまくいくかという心配もありましたが、真剣に話し合う保護者の姿を見つめる児童の目は、いじめ問題を子どもの世界だけに押しつけない親の思いをきちんと受け取ったようでした。また、周りで聞いていた教師たちにも大きな刺激になったでしょう。この取り組みは、今後全国に広がっていくという思いもあるようです。いじめ防止プログラムに保護者が関わるという画期的な取り組みでしたが、これがそが本来のPTA活動なのだと思いた。